

コロナ禍、地域全体に支援

「戦したい」と話しています。マイタウンは、徳永市長が掲げる3つの政策の柱や瀬戸内クロスポイント構想についてインタビューしました。



▲記者会見する徳永市長

記者・竹葉 本日はお忙しいところ、ありがとうございます。早速ですが、徳永市長の掲げる施策について伺いたいと思います。

市長・徳永繁樹 3つの柱の中の一つ目は「市民が真ん中」の視点で市民の役に立つ市役所を目指します。例えば先日、ある方から市役所1階

の女性トイレが使いづらいと指摘があり対応をいたしました。日常の慌ただしさの中、今まで忘れていたり、気付けていなかつたことをしっかりと見つめ直し、市民満足度の高い市役所に体质変革をしていきます。市民参加の市制運営は特に重要で、市民の意見を聴取する仕組みづくりを考え、皆さんとの声を反映し形にするなど、質の高

い市民サービスを提供す

マート自治体とは何かを具体的に教えてください。

市長

A.Iなどの技術を活用したサービスや事

業のデジタル化の推進で

各種申請手続きのオ

ンライン化、市税などの

キャッシュレス納付など、

いつでも相談に対応でき

る窓口の設置、手続きの簡素化効率化を図ります。

3月からはマイナンバー

カードを利用すれば、コン

ビニに設置しているマルチ

窓口もいち早く設置し

第一弾として、コロナ相談

窓口を設置しました。そ

の他、ワクチン接種に関

する疑問や不安に対応

する

「コールセンター」、酒類

を提供する飲食店への

窓口も相談に応える総合相

談窓口に関しても検討

されています。

記者

市役所にも4月

からデジタル戦略室が設

置されていますが、超ス

ペーパーレス化を図ります。

「トップセールス展開する」

記者 市役所にも4月からデジタル戦略室が設置されていますが、超ス

ペーパーレス化を図ります。

3月から4月からは、市税などの納付の際、口座振替に加え、スマートフォンアプリを利用した

コピー機で住民票の写しや印鑑登録証明書が取

得できます。4月からは

支給されます。特にコロナ禍によるタ

オルや造船、飲食店など

今治市を製造・物流・デジタル・観光の拠点にしま

す。特にコロナ禍によるタ

オルや造船、飲食店など

今治市の製造・物流・デ

ジタル・観光の拠点にしま

す。特にコロナ禍によるタ

オルや造船、飲食店など

今治市の製造・物流・デ

超スマート自治体に変革 手続きオンライン化図る

ど、新たな手法も必要だと思います。

記者では2つ目の柱、市民の命を守り「商いができる今治」の実現についていかがでしようか?

市長 私の提唱する「瀬戸内クロスポイント構想」は、今治市が瀬戸内海の「へそ」に位置する立地条件を生かし、地域で所得を循環させ、地域経済の活性化を目指すものです。

「へそ」であるにも関わらず、現在は資金消費、投資が外へ流れています。流出を流入に変え、今治市を製造・物流・デジタル・観光の拠点にします。特にコロナ禍によるタ

オルや造船、飲食店など

今治市の製造・物流・デ

ジタル・観光の拠点にしま

す。特にコロナ禍によるタ

オルや造船、飲食店など

今治市の製造・物流・デ